



泗水小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」



泗水小学校
学校だより No41
文責 芹川博文
3月8日(金)



ツバメの世界にも ファーストペンギン!?

～ 春は新しい扉を開ける季節 一人一人がファーストペンギンに～



「春が来た♪ 春が来た♪ どこに来た♪ 山に来た♪ 里に来た♪ 野にも来た♪」2年生の教室から元気な歌声が聞こえてきました。3月に入りました。と言ってもまだまだ寒い朝を味わった一週間でした。そんな朝、興味深い話を聞かせていただきましたので紹介させていただきます。

学校近くの酒屋さんが、「去年は、3月14、15日くらいに最初のツバメが来たですもんなあ。面白かもんで、だいたい最初は1羽で来ます。様子ば見に来っとですかね。」とのこと。この話を聞いた時、私は、「危険を冒しても、最初に道を切り拓く役目が、ツバメの世界にもあるのか」と、勝手に想像しました。ファーストペンギンの姿とともに。

朝早く登校して校舎が開くのを待っていた6年生と話をしたところ、「中学生になったら野球部に入ろうと思います。」とのこと。聞いてみると、これまで特別な経験はなく、「やったことがないことを中学校で始めたいと思います」との言葉。清々しい笑顔で話す彼の姿は、私の目には、まさに勇敢な「ファーストペンギン」として映りました。

大勢の人を動かすことでなくても、誰もが「新しい風」を吹かせることができます。一人一人が、「ファーストペンギン」になれると思います。春は、新しい扉を明ける季節です。その向こう側が、どんな景色なのか全く見えないことも多々あります。その世界に飛び込んでいく子どもたちのチャレンジする心を、しっかりと支えていきたいと思った朝でした。



ツバメの話に戻ります。昨年の初秋、その酒屋さんが言われた言葉を思い出します。「毎年じゃなかばってん、一羽、どうしてん飛びきらん子のおるですもん。そがん時は、親ツバメが回って待っとるですよ。そして何日かずっと、いつの間にか子ツバメもおらんごつなとります。」

昨年並みなら、来週末あたり、最初のツバメが到着するかもしれません。

ファーストペンギンとは・・・

群れで移動するペンギンの中で、最初に海に飛び込む勇敢なペンギンのこと。リスクを恐れず初めてのことに挑戦する心の持ち主に対して、敬意を込めて「ファーストペンギン」と呼ぶことがあるそうです。



ツバメが飛んでくる「南の島」ってどこ？

ツバメは、日本から約2000～5000km離れた、フィリピンやインドネシアなどの南の国からやってくるそうです。地図にもナビにも頼らず、太陽の位置を目印にして方角を理解しているとのこと。地面すれすれを飛び回るのは、餌を取りながら、巣の周りの様子を記憶するためとか。賢い鳥ですね。害虫を食べてくれる益鳥でもあるツバメ。しかし、最近の気候変動のためか、以前より数が少なくなっているそうです。

「渡りは、ツバメたちにとって、逃げることのできない旅です。でも、遠くきびしい旅の向こうには、あたたかい国が待っています。」 (※ 科学のアルバム「ツバメのくらし」より)

平和をつくり出す人に ～ 菊池（花房）飛行場の歴史に学ぶ ～

「突然、その特攻隊員がこうつぶやいたので。『行きたくないなあ・・・』」

(泗水中学校制作紙芝居「童顔の特攻隊」より)
講師の永田さん(菊池飛行場の戦争遺産を未来に伝える会)をお招きし、6年生が平和について学びました。永田さんは、私たちにできることは、
① 調べること ② 考えること ③ 動くこと と話されました。その後ミュージアムも見学し「本物」に触れた6年生。平和をつくり出す人になってほしいと願います。



ウサギさん ありがとうプロジェクト ～ 1～3年生のために4年生が素敵な企画 ～

ウサギのお世話を経験しないまま「お別れ」になる1年生から3年生までの下級生のために、4年生が昼休みに「ウサギさん ありがとうふれあいタイム」を企画してくれました。

子どもたちは、大喜びでウサギたちにエサをあげたり、触ったりしています。

